

魁

合

全

021
43
1



027
A3
1



黄文恒



番

丸

古池や蛙飛ぶ心ちりり

右

仙化

芭蕉



しげくぬつくまふ

此のいかにては
 一巻のしるしめり

にかくの足をつくわると
まぶ。水魚ノ一

才三番

丸 勝

素堂

而乃蛙 壺なるにふるもと壺也

右

文鱗

泥龜と門をふるふる蛙哉

小田乃紙才乃くしゆ壺と

ふみふる下雨のかさつと壺

高くとち際泥乃沖いれ力を

ふししと不才の才成柴い

ゆる龜乃隣のかさつれん

門を並ふゆとさつれんを

さつれんをさつれんを

蛙乃さるうさるしりハ勢も

竹心

才三番

丸 勝

嵐蘭

うとくと我類さ付 壺ハ

右

孤屋

人の心は時を重んずるの蛙介

た中乃七文字の強きと

以て五文字玉はくもぬけり

うきも留置りし白くも^おま

中にたま白にうきもくも

ふりてはくもくもくもくも

くもくもくもくもくもくも

くもくもくもくもくもくも

おまはるん右足音をくらひ
まはるん時をくらひ面白く
侍りしはくもくもくもくも

才四番

くもくも

七

持

翠紅

木のりの鐘よりおまはるん

七

濁子

義員くもくもくもくもくも

飛くもくもくもくもくも

不平鳴としかる御座る
ふ力と一掃

才六番

丸持

友五

鈴とるくかしくは体じ驛哉

丸

瑛樹

まのりと牛よあひれり蛙也

まのり書抱くくは種鈴乃

く魚の蛙心くくく

物うは福さあけんや感方

く大りくはあは角あは

とくも力をたふあこくや

くかかきしく云叶魚

らねり野徑乃かこつ眼

赤く可お持

才七番

丸

朱絃

備いつく入おのりつ亦持

右 勝

紅林

かゝ道や山道の軒に入鞋

雨乃ほの入おをひて僧

寺よりかゝるはたに於ては

寂しくひしひとて何れ

の軒より入つると心も先

く玉汗もあをひて

結方しをひて

才八番

丸

芳堂

夕影や鏡はまをみかた鞋

丸 勝

扇雪

稽乃念佛くくくくく

花田ものかゝるはくくく

うけく西をくくくく

大に氣色はくくく

右思ひくくく

念佛くくく

む殊勝しりこ

才九番

九勝

琴風

夕月長暈まを千ん柳下

た

水友

飛うつら猫や追ひ小枝く真

夕月如月暈夕月如月如月

叶ひ侍るをたれうらわらあ

時付句物に云ふ秋くまに

マ小のくかく丸合侍とて是

まじり来りては海名所とて

尸法ん風寒乃地をこりて

いひわたりて一句多きりた

か(きこう)に工業乃強

弱をとらばたうちあはく

才十番

九

徒南

あはれこの音え頼らふ軽小

右 勝

松風

長きと蛸 けふも寛うけ

半橋 疎雨 作愁 疎鳴 蛙 似

與 幽人 語 けとと 時 得

あゝ 海 ありと あり 前 換 あり

魚 け け と と 一 白 あり あり あり

くく 云 條 あり あり あり あり あり

竹 あり あり あり あり あり あり あり

云 流 あり 慈 鎮 西 行 の 台 質

中 あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり

才 十 二 番

丸

全 峰

花 あり あり あり あり あり

右 勝

流 水

海 あり あり あり あり あり

海 來 つて 幽 池 あり あり あり

同 あり あり あり あり あり

く寒葦の中寝かぶ衆
いけ鷺登る日予人の中向
つゝ潔白の中ほらぬ身を
要き人共魚をうらむ心有
とは争ひや別困り意
くく玉人色云う藻うら
も蛙わ志高遠もくを
いふはくく人そとくを見
解せくくゆきり行へ

才十二番

丸持

嵐雪

くくくくくくくくくくく

右

破笠

竹の真昼やしきやうしあや

あなうしあや

くくくくく

才十三番

丸持

小親

中よりと蛙ゆく柳外

七

三二

手紙にゆはる柳のほろ蛙外

二木乃柳外はひよあひ緑

光色をささりたれ中先

一木の蛙をむ乃枝末

色をけつととも歌乃こと

葉外とつにさうとく遊れる

木末よりさみ既のゆを

一木いさみのゆをさけけ

志はしむと表はるるた乃

蛙と樹上よのゆりたう

ゆめくさるゆいさうとゆめ

露ぬつさやみ玉梅もそ叢

蕨のくはるあそむ

乃名志あそむらんゆれ

板寄により好む随ひく

けらあゆめさうとゆめ

後行進も一巻乃かたり
古今乃等只この後より
身を侍しきさう侍え
人をも心くまらち侍
うい

才十才番

丸持

ちと

あけひりけ水は流すの蛙外

右

山店

あまのねる道は逢ふ時つら

うす麻乃蛙流は柳川の
珠楚の舟のあそびを正
けらふれりとのかたりの
心向と文むせりく侍り
た右とゆゑ勝負とてわい

才十五才

丸

橘義

葛原のそとやど侍外

右勝

蕉平

若草の野にわたりて流る

九事可延辨りてとて也

常の事とて乃に痛みの所也

侍るに中しき事好く也

おろしき抄布といふ事心願

も侍るに右流るに中し

く可為侍るに

才十六番

九

翠白

道如く州子背を流る蛙か

右勝

く

海に蛙をいこむる蛙か

州子背流る蛙のけし

おろしき抄布といふ事心願

我子とあま又母のけし

魚しりあまいしき具柴

をしりあまいしき具柴

とろく睡里乳燕哺ホ鳥
その喋一と錢之版所あり
風流乃外よる所あり
實ありむ緒とゆへし

才十七番

丸持

宗派

ちんちんちんちん上り下り蛙カ

七

嵐竹

軟草やるにつけある蛙カ

飛も色道よ池とのりり
雨人の名も中叶へる日の軟
軟草に川とありわろく
水もきく松風蛙カの
鳴きこもりし又捲りし

才十八番

丸持

杉風

山井や墨のたけよと浪カ

七

蚊足

尾々ふるくすの晴ありぬ蛙し

山を井の蛙墨のた月くす
くす我ら心もくも幽玄か

しゆ衣ふら水汲僧

のひく山井のありと海岩

花ものあすすも冷し

くす寸也もあす草のあひ

ささこの松よかへくす清水

らくしよくすわびひもた

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

物くく物くく乃外心地せ

乃持

才十九番

九 勝

卜宅

此を以て人跡を以て蛙

七

峽水

約はくを以てらるる蛙

此番は判者扱字とも名連

日を倦く我を忘ゆ

け。一 仍て以判詞不審

九うらら

才九番

九

そら

う然のら暮の色青も雨長

七

き角

うが。蛙江江星の夜

う然のら暮の色青も雨長

なれを以て九州の麓

の字の由り流を以て

表わす。其のの文字

をば今もかきり形も情
残るは此の妙にあら
まゝまゝのちのちの餘
月あり江の色月い
寒く星の影い
て屯に蛙の鳴出
艶ふるまに物
青洲池塘處に蛙約あつて
さうさうの半夜をさうさう

ける夜は気色も
多者所ありあふ九章の
塔の上より亦一雙如
くふらん

追加

鹿島トリ 詣り
志間乃 継

継指乃栗内教之 飛蛙 不ト

頃白會深川芭蕉蓋印
 群蟻鳴向以衆議判白
 馬壳兼青蟻堂仙化子

撰馬三



貞享三丙
 寅歲閏三月日

新草屋町 西村梅風軒 彫
 刻

蕉門俳書目錄

乃乃一粟	其角輯	二冊
續之か一糸	同輯	二冊
花津又	同輯	二冊
後志つ	湖十輯	二冊
我乃乃ぬく	嵐舌輯	二冊
加乃乃合	くさげさ角 系堂仙化輯	二冊
皮籠招	涼笠輯	二冊

載文堂藏板

新二百韻	上角輯	一冊
新三百韻	日輯	一冊
丙寅紀行	風瀑集	一冊
新山家	上角輯	一冊
妻乃	日越人	一冊
柳	宗瑞 咫尺	一冊
長樂寺子句	丈石	一冊

愛知女專
第 11657 號
圖書

千載堂百歌仙集	五冊	誹諧書籍目錄	三冊
小傘 <small>松平はす</small>	一冊	ととたし道	二冊
七部集小本 <small>甚の目 徳義 後藤甚のの 負外</small>	一冊	祇園拾遺	二冊
貞徳祖 <small>貞徳 三つ栗持注</small>	一冊	三月物 <small>京室近會</small>	一冊
山崎の密	一冊	關相撲	三冊
下卯集	一冊		
毛吹くら	五冊		
同進加	近刻三冊		

京都孫川橋上 西村市郎在傳梓



黄文造書

